

今、酒井先生から受け継ぐものは。

私たちの「ハートツリー」の創始者の酒井滋子先生が亡くなりました。93歳であった。先生らしくやんわりと穏やかに往生されただろうと私は想っている。私はいまさらだが、先生は本当に私心のない偉い人だったなあという感懐を抱いている。不登校やひきこもる若者への理解が世間的にはあまり進まなかった時期から、先生は文字通り私財を投げうって、その居場所づくりや相談活動に奔走されていた。先生は声高ではないが、ともあれ苦しんでいる当事者やその親たちには文句なしに寄り添うことが大事なんだとよく言われていた。そういえば、先生はいつでもほぼ自然体でスッと当事者や親たちの横にいた。そして、いつのまにか少し存在を薄めるようにして、そこに溶け込んでいた。私は何度もそういう場面を垣間見た。私は、これは誰もができることではないかもしれないとも思った。私は、酒井先生のこの「当事者に寄り添う相談姿勢や関係づくりへの気配り」こそ、ハートツリーの活動の根底に今でも据えられるべきものだと思っている。知的で、時に凛として、しかもお酒落だった酒井先生のエピソードはいっぱいある。それらは時宜をみてどこかで話そう。今は酒井先生のご冥福を心から祈りたい。

法人理事 布袋 太三

酒井先生へのメッセージ

先生との出会いは高校1年生。家庭科の授業は「プロジェクト」と称して各自が家庭生活に関わるものをテーマに決めて取り組むもので、それまでの小中でのイメージとはかけはなれたものでした。3年生では担任をしていただき、私は学級日誌に昨夜みた水曜ロードショーの映画のことを書きました。「ベニスに死す」のビョルン＝アンドレセンから受けた目眩ましのような衝撃を興奮して長々と綴ったら、添え書きは「私はダーク＝ボガードの方が好き」でした。最後の通知簿には「いつまでもユニークな存在でいてください」とのコメントをいただいた。私から見れば先生こそユニークでした。大学に進学後も帰省のたびに自宅を訪問しました。若くて、不遜で、生意気盛りの20代の私たちを、わけ知り顔して諭すこともせず、一緒になって憤ったり喜んでくれたりしたのです。田辺高校の退職を目前に特別支援学校に、それも言語の領域へと転職されたとき、驚くよりも先生らしいなと納得したのを思い出します。

山崎 めぐみ

酒井先生追悼に寄せて

酒井先生との初めての出会いは今から35年ほど前になりますが、その後ハートツリーハウスのスタッフとして出向した2年間は様々なことを話し合い、共有することができたすばらしい時間でした。年齢を感じさせず何事にも意欲的な姿は今でも印象に残っています。異動後も公私問わず楽しいお付き合いをさせていただきましたが、再会かなわずとても残念に思います。ご冥福をお祈りいたします。本当にありがとうございました。

篠崎 恵子

酒井先生へのメッセージ

酒井先生と出会って28年。初めてお会いしたとき、私は高校生で不登校でした。酒井先生は非常勤講師をされていて、調理実習を教えてくださいました。その12年後、酒井先生と一緒に仕事をすると、夢にも思っていませんでしたが、貴重な経験をさせて頂きました。たくさんのクッキーやパウンドケーキと一緒に作りました。それが酒井先生の夢のひとつでした。私が失敗したときも、心広く受け止めてくれ、気遣ってくれました。「自分のペースでやっていけばいい。のぶちゃんにしかできないことがあるんやから。」感謝しかありません。優しいあの笑顔を、一生忘れることはないでしょう。ご冥福をお祈りします。

富士 信子(長瀧)

酒井 滋子 様

松下さんから、酒井先生がお亡くなりになったことを伺いました。追悼の言葉を…というお話をお受けしましたが、どんな言葉としたら良いのか頭の中がグルグルするばかり。だから、先生へのお手紙にさせて頂こうと思います。学生の頃から、西牟婁の教育会館は知っていましたが、酒井先生ときちんと出会えたのは、私がやおき福祉会からハートツリーに出向させて頂いてからだと思います。先生は年齢こそずっと上の方でしたが、とてもおしゃれで若い感覚の持ち主でした。自転車ですっそうとあちこちに出かけていかれたり、ふわふわの白髪を、時にはメッシュに染めてみられたり、当時、末広町にあった居場所に集う利用者の話を熱心に聞き・メモして、わからないことはしっかり調べられたり…あの笑顔や笑い声は今もはつきりと思い出せます。私自身、残業していたら、すっと現れて「食べてね～」と差し入れを頂いたり、用事で自宅訪問させて頂いた際は、緑茶感覚でお抹茶を立てて下さったり（あれは本当に美味しかったです！）何だかんだと気に留め、声を掛けて頂きました。ほっとする瞬間を頂いていました。とても身近な存在でした。今も対人支援を続けている中で、先生と過ごさせて頂いた時間は、人と関わることの原点を思い出させてくれます。「おっきなことをするよりも、ささやかな寄り添いを…その人自身の力を信じて…」何年経っても…な私ですが、これからもぼちぼち…丁寧に日々を積み上げていこうと思います。酒井滋子先生、今まで本当にありがとうございました。またいつか、先生のお抹茶が飲みたいです。

谷 真美子

酒井先生を偲んで

酒井先生との出会いは、私が和歌山に来て間もない頃になります。「ひきこもり青少年の居場所」を作りたいと前々から活動されていた先生のお手伝いをさせて頂く事になったからです。当時は今よりも不登校やひきこもりの方が取り残されている時代、そんな時に相談を続けておられたのが酒井先生でした。そっと近くに歩み寄り、自然に話をする…そんな先生の姿に少しずつ心を開いていった子どもたち、ご家族がどれほどおられたのか。相談する場を求めていた方々にとっては本当に頼れる存在だったと思います。とはいえ、その自然さが本当に柔らかく、優しく、「先生」という堅苦しさはなく身近に感じられるのも先生の人徳であった気がします。寄り添う事の大切さを教えられました。ハートツリーから離れ、授かった我が子が重度の障がいを抱え、支援を要する子であった時に、先生のような方が近くで支えて下さったら本当に心強いだろうなと思ったこともありました。酒井先生のご冥福を心よりお祈り申し上げると共に、みんなが少しでも生きやすい世の中にハートツリーも育っていく事を願っています。

西脇 南美